

平成 2 9 年度委員会活動成果報告会

2018-6-8
調査・統計委員会

調査・統計委員会の体制と主な活動内容

調査・統計委員会

(14社15名)

計：延べ41社、44名

電気測定器WG

(5社5名)

PA計測制御機器WG

(8社9名)

電力量計WG

(5社6名)

環境計測器WG

(4社4名)

放射線計測器WG

(5社5名)

■調査・統計委員会

●「電気計測器の市場見通し」作成

1) 過去10年間の市場実績

(JEMIMA自主統計)

2) 5年先までの市場見通し

(会員企業アンケート)

●景気動向に関する講演会開催

■5つのワーキンググループ

●各製品群の市場環境調査を行いアンケートを作成

●JEMIMA自主統計データと、会員企業へのアンケート結果を基に、各担当分野ごとの市場動向を分析

調査・統計委員会のミッションと目標

■ ミッション

計測・制御の総合的な工業会として、
会員企業と協働し、精度の高い統計情報と
客観的に調査分析し作成した「**市場見通し**」の提供と
その活用を啓発する。

■ 目 標

- 1) 信頼のおける統計資料を会員企業に提供するためのシステムを構築する
信頼される市場分析と見通しの根本は、**統計データが正確**であること。
- 2) 自主統計に基づき市場を調査分析し会員企業に提供するとともにその活用を啓発する
作成者および会員企業が市場予測や自社の**事業に活用**できること。
- 3) 統計データのグローバル化を模索する
グローバルデータをどのように拡張してゆくか**方法の検討と模索**。

29年度の主な活動成果

■ 施策

1. 市場見通し本

「電気計測器の中期見通し 2017～2021年度」

（緑本）の発行

2. 中期見通し発表会開催（東京、大阪）

3. 国内外の景気展望に関する講演会開催

4. グローバル統計データの提供

5. 活用に主眼を置いた勉強会



29年度の主な活動成果

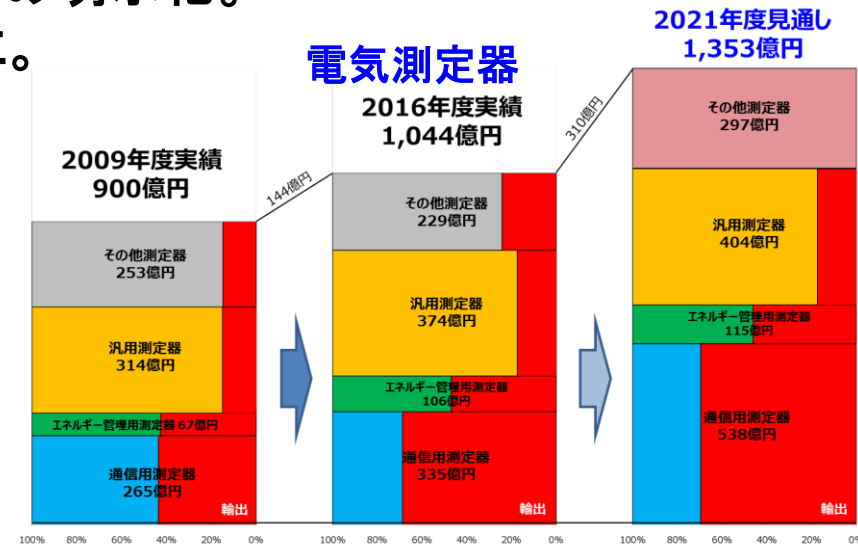
1. 「緑本」のさらなる改善

- ①「面積図」を全機種群に採用。
- ②統計データの説明前に、「対象製品」の明示化。
- ③ご活用頂きたい「増加要因」を太字に。

2. 「発表会内容」の充実

- ①「面積図」で一目で分かり易く説明。
- ②最近のトピックスを多く取り入れた。
- ③長期トレンド変化も記述。

3. 「勉強会」による委員のレベル・アップ



基礎編

- 1章：目的と歴史（日本と工業会統計歴史）
- 2章：統計の種類（政府統計と自主統計）
- 3章：統計利用の注意点

比較編（他の工業会との比較）

- 4章：統計委員会の組織比較
- 5章：統計本の比較

活用編

- 6章：統計データの読み方
- 7章：統計の活用方法

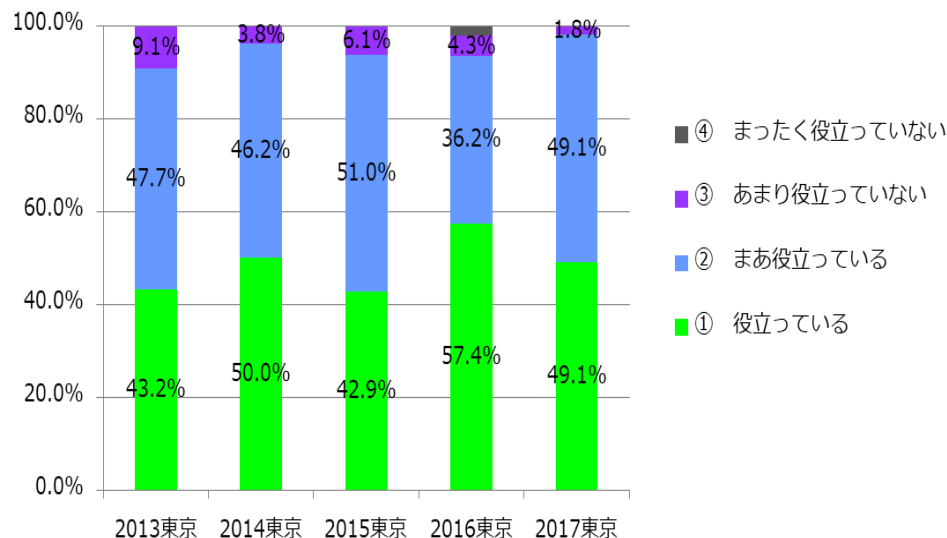
「中期見通し」緑本の評価

・発表会アンケート結果より

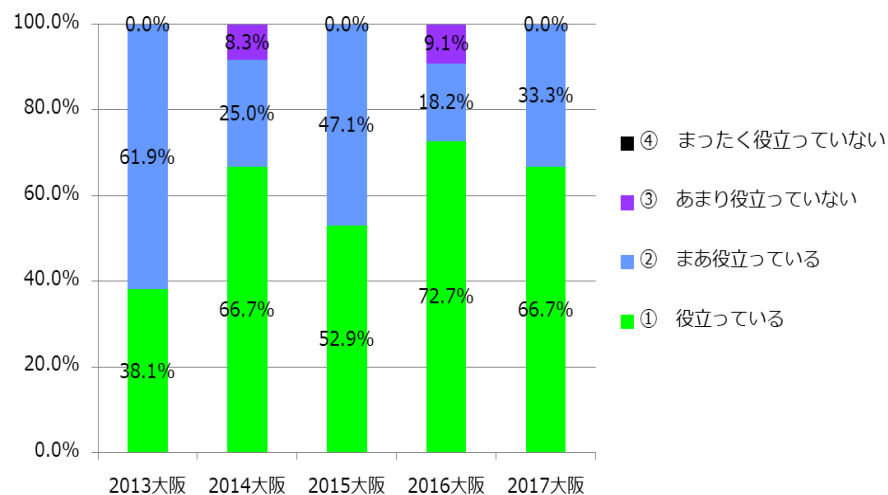
役立っている + まあ役立っている
(東京) … **98%**

役立っている + まあ役立っている
(大阪) … **100%**

「電気計測器の中期見通し」は業務に役立っていますか



「電気計測器の中期見通し」は業務に役立っていますか



緑本の好評要因

■ 経産省 萩原様のご講評

緑本が**毎年毎年改良刷新され**、大変読みやすく、判りやすくなっている。

■ アンケートの結果から

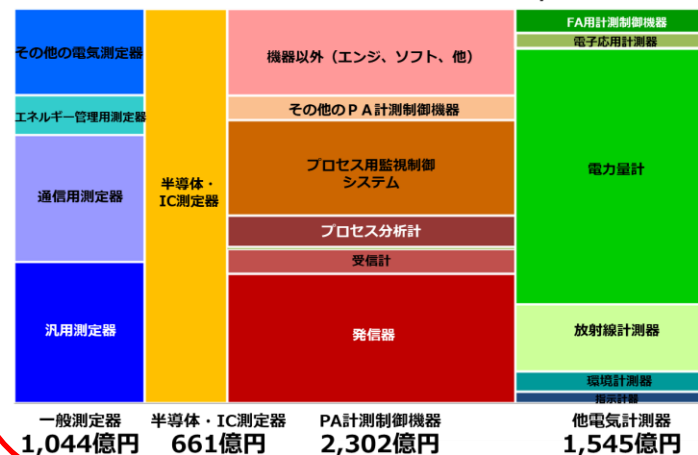
- ① 国内の市場の**動向が把握**できる。
- ② 冊子の内容が年々拡充されている。**(用語の解説など追加された)**
- ③ **成長のポイント**がよくわかる。
(増加要因、減少要因)

■ 面積マップの多用

グラフや文章よりも**実態を把握しやすい**。

どの分野がどれだけ売れているかが**視覚的にわかる**

電気計測器の2016年度売上実績 (5,552億円)



中期見通し発表会・基調講演

「電気計測器の中期見通し 2017～2021年度」発表会と基調講演

各製品ごとのトピックス、面積図やトレンド・グラフの多用により、満足度100%を維持できた。

■発表会

(東京会場)

日 程 : 2017年12月7日

会 場 : 全国町村会館 (永田町)

参加者 : 83名

(大阪会場)

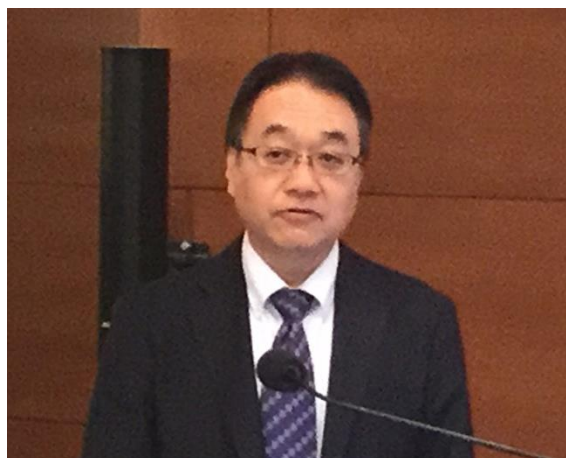
日 程 : 2017年12月13日

会 場 : 丸ビル (大阪市新大阪)

参加者 : 20名

東京 : 満足+まあ満足 100%

大阪 : 満足+まあ満足 100%



経済産業省 大臣官房審議官
調査統計グループ長 渡邊 厚夫 様



近畿経済産業局 次世代産業
情報政策課 課長 森下 剛志 様



JEMIMA 調査・統計委員会
委員長 新野 哲久

景気動向の「講演会」

「日本国内外の景気動向」に関する講演会の開催

講師：公益社団法人 日本経済研究センター
研究本部 短期経済予測主査

佐々木 仁様

日程：2017年9月13日

会場：計測会館 401会議室

テーマ：（１）国内設備投資の動向とトレンド
（２）海外設備投資の動向とトレンド

参加者：29名

(社)日本電気計測器工業会 講演資料

(図表1)

当面の内外景気展望

予測期間を通じて、緩やかな景気拡大が続く見通し。
もっとも、成長は外需・企業部門主導で、内需、とりわけ家計部門が主導する自律成長に至るには道半ば。

2017（平成29）年9月13日（水）

公益社団法人 日本経済研究センター 研究本部
主任研究員 佐々木 仁

日経センターのホームページ（<http://www.jcer.or.jp/>）
に一度、アクセスしてみてください。会員企業に限定
しないコンテンツも多数掲載しています。



成果

国際／国内の景気動向について、専門家による正確で
詳細な分析を伺うことにより、

- 1）当委員会：市場見通しのバックボーンとなる経済動向について、
見通しまとめと分析への活用ができた。
- 2）会員企業：各社の事業戦略、マーケティング活動への活用。

30年度に向けて課題

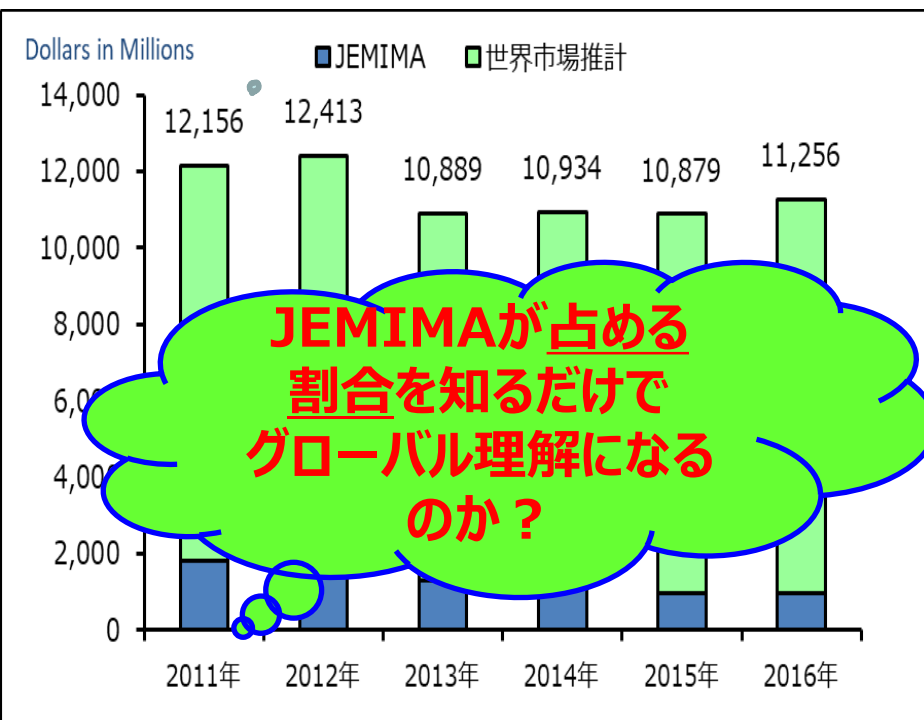
1. 「電気計測器の中期見通し」(緑本) の活用
29年度勉強会の結果から、30年度は企業活動に役立て頂く方法を検討。
2. 啓発活動としてWeb、メールマガジン等を利用して
新たな統計データを広報する。
3. グローバルデータ集計の他に、世界のユーザー市場規模、市場動向、参入企業の動向などの、「会員企業が知りたい情報」の調査へシフトする。(次項を参照)
4. 新たなカテゴリー (例えばIoTに関連した売上など) の統計検討を行う。

グローバル統計の課題

電気測定器の世界市場推計の例

単位 \$

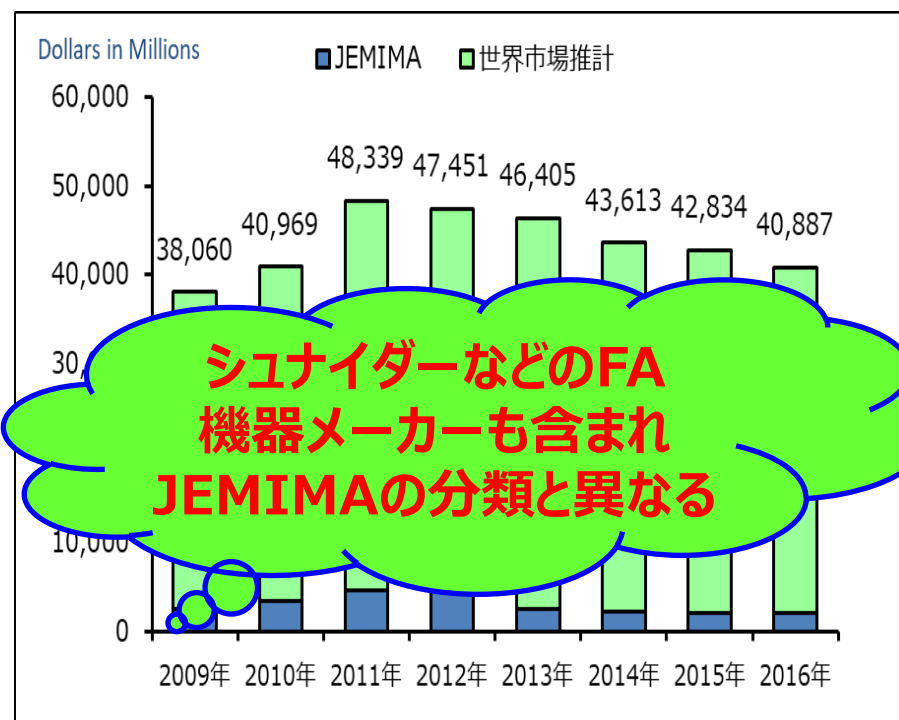
(アニュアルレポートなどの公開データから)



PA計測制御機器の世界市場推計の例

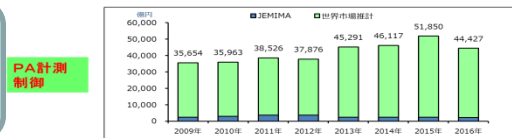
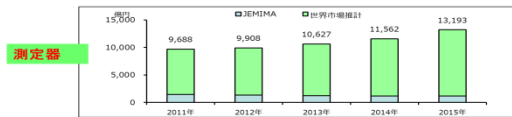
単位 \$

(アニュアルレポートなどの公開データから)



グローバル統計：課題への対応策

(主要企業のアンニュアル・レポートの数値合算)



従来の対象

測定器
PA計測
制御

企業名	2015年	参照先	備考
1 Honeywell	17,079	Annual Report	Automation and Control Solutions
2 ABB	7,716	Annual Report	Process Automation
3 Siemens	10,794		
4 Emerson			
5 YOKOGAWA			
6			
7			

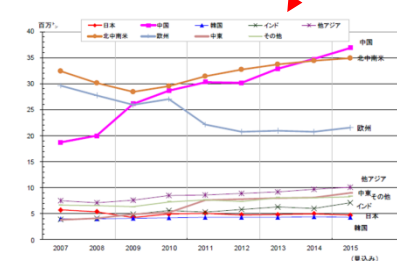
会員企業が
知りたい情報

	統計	情報
当業界	グローバル市場規模	世界の参入企業と動向
ユーザ市場	世界 ユーザ市場規模	世界 ユーザ市場の動向

全て
Webからの情
報収集する

ユーザ市場を
入れた
4象限情報

【図5-3】エネレン系誘導品の地域別需要量の推移



図表1-2 各国「EV化」政策の例

国名	主要な政策	主な効果
オランダ	2025年までに内閣府を主力とする自動車の新車販売を禁止	多岐にわたる、下位議会でも賛成多数
ノルウェー	2025年以降のガソリン車およびディーゼル車の新たな販売を禁止	主要政策が合意したとの報道がある。省や自治体レベルで法的拘束力がある
フランス	2040年までにガソリン車およびディーゼル車の新たな販売を禁止	環境連帯移行大臣が発言
英国	2040年までにガソリン車およびディーゼル車の新たな販売を禁止	環境連帯移行大臣が発言
ドイツ	2030年までに内閣府の新たな販売を禁止	連邦参議院が賛成を提出(法的拘束力なし)
中国	将来的なガソリン車およびディーゼル車の新たな販売を禁止	中国工業和信息化部次官が発言
インド	2030年までにガソリン車およびディーゼル車の新たな販売を禁止	電力、石油、鉱山大臣が発言

図表1-3 世界自動車販売台数の推移とxEV-BEV比率

